

るをや(親)あるべしや。釋迦佛・法華經はめ(妻)とをやとの如くましまし候ぞ。日蓮を
たすけ給事、今生の恥をかくし給人也。後生は又日蓮御身のはちをかくし申べし。昨
日は人の上、今日は我身の上なり。花さけばこのみなり、よめ(嫁)のしうとめ(姑)にな
る事候ぞ。信心をこたらずして南無妙法蓮華經と唱給べし。度々の御音信申つくし
がたく候ぞ。此事寂日房くわしくかたり給へ。

九月十六日

日 蓮 花 押

三四二 伯耆殿御書

形像舍利並餘經典 唯置法華經一部と申釋と、直專持此經則上供養の釋をかまうべ
し。餘經とは小乘經と申ば、況彼華嚴○以法化之。故云乃至不受餘經一偈の釋を
引け。

はわきどのへ

弘安二年九月二十日

日 蓮

三四二 伯耆殿御書

一六七